



繪本雪鏡談

十一

^13  
4436  
11



113  
4436  
11

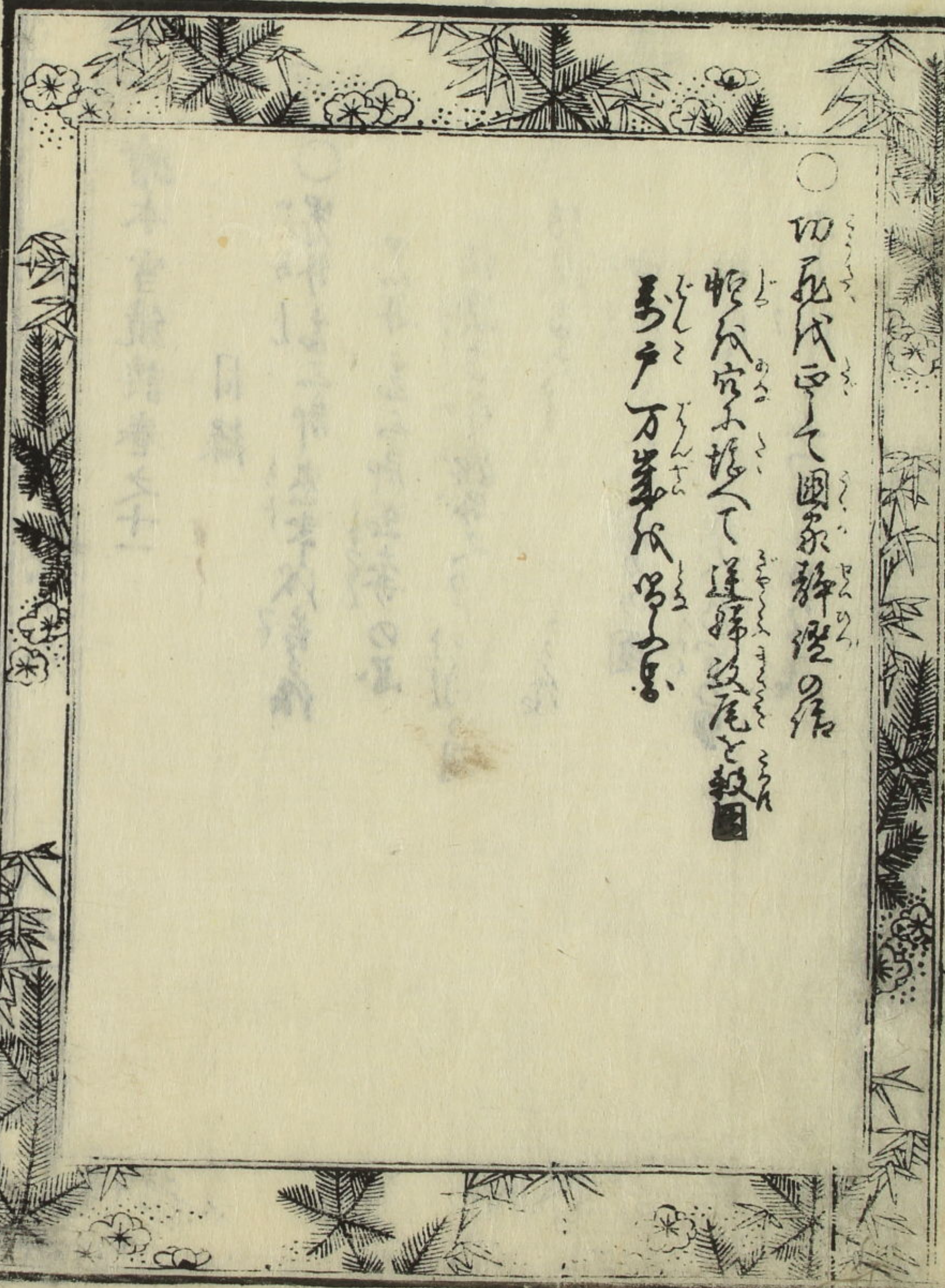
邑人部談  
實本  
海村

繪本雪鏡談卷之十一

目錄

- 男井志三郎 密事代巻 若居
- 男井志三郎 出奔の事
- 佐後志三郎 密事代巻 若居
- 佐後志三郎 出奔の事
- 大月信久 密事代巻 若居
- 大月信久 出奔の事

○四代中へて國家新造の居  
 恒久宮不壞にて運轉改尾と號  
 馬戸万葉伝也

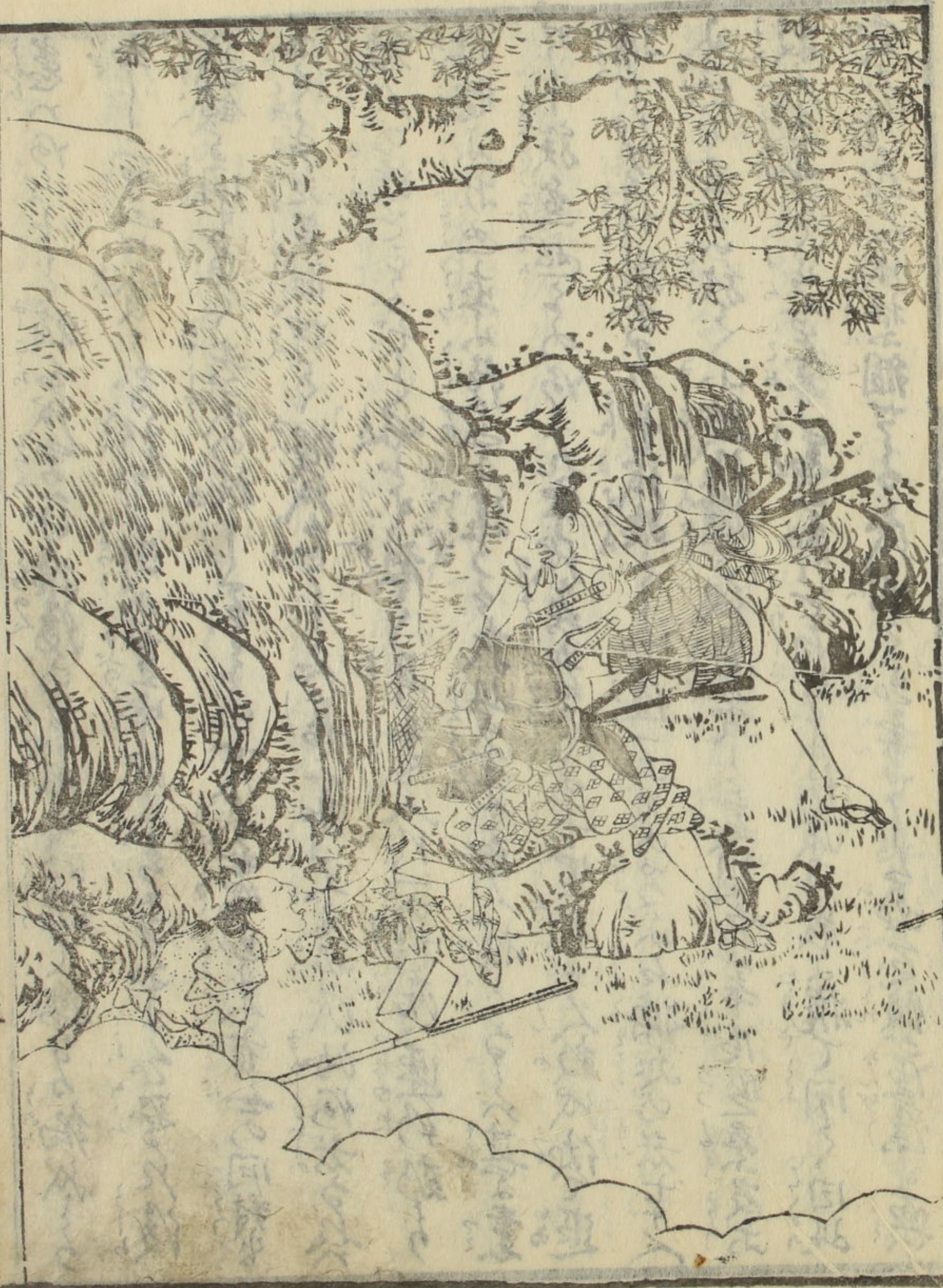


繪平雪積被卷之十一

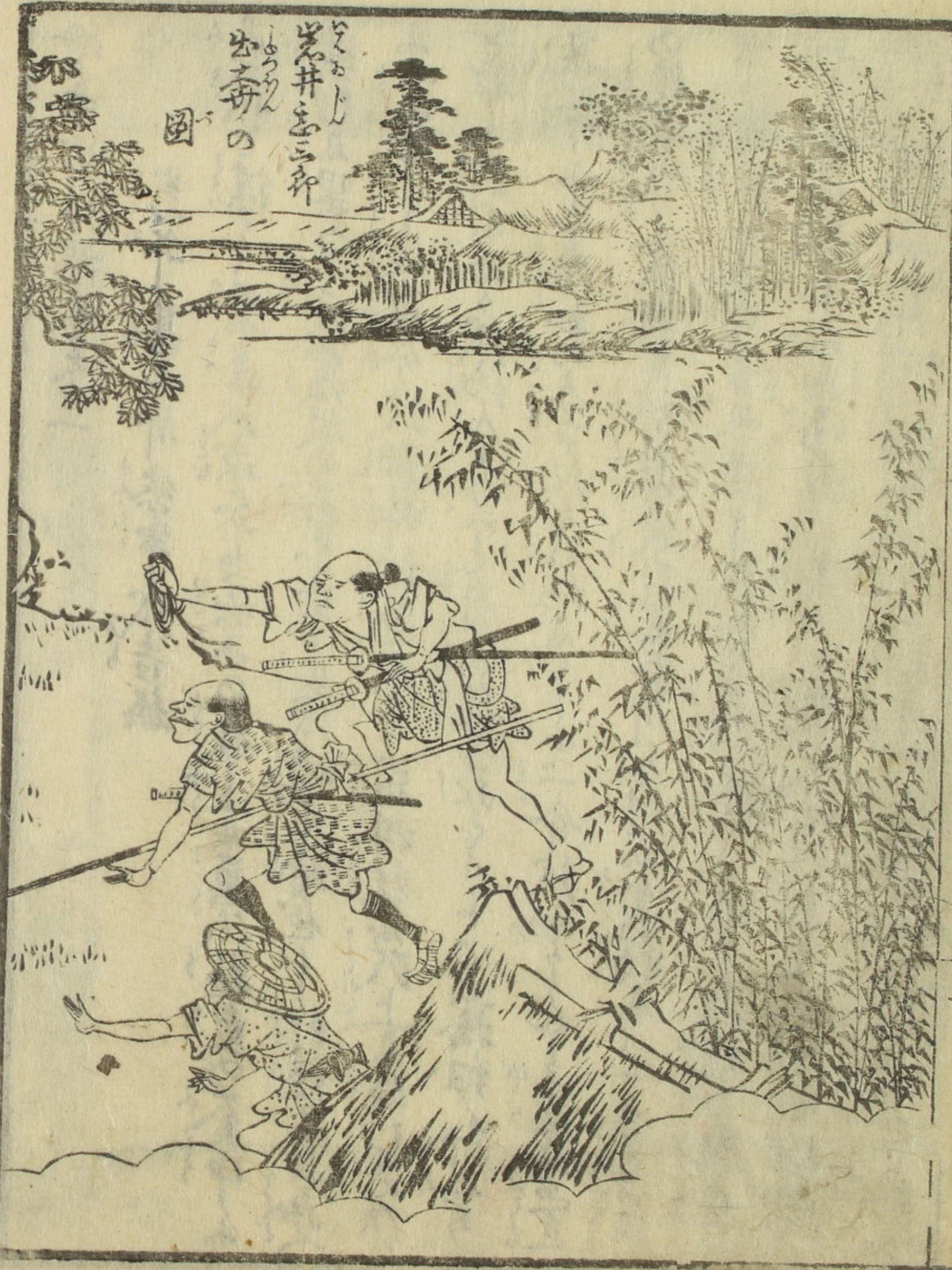
岩井甚三郎泰平代吉孫

不義と傳く業事求ふと云ふの最上は鼻ひ鯉魚の釜中小  
 樂むは異るは霞後のまふ平は山崎く侍也一印後育彦  
 此書也一後即今此秘葬故身圖を花科既も改上は勝むるひ  
 とね一初ふむは代ゆんよりて自然後て死するもの五拾組人になり  
 其の中にも藤社の志をたれはゆもしく二命狀助んは病まき  
 の後ふつは斯く信長岩井甚三郎と評ふ事猶ありて死後畏  
 半會歎ふもこの匠まらむは秋も難とく是身狀後出賊志の  
 如く身狀拾一は運ぶと書りて是後信長も死す日也  
 後山城を十里針遠より一の山嶽に隠して家子退捕の事と云ふ





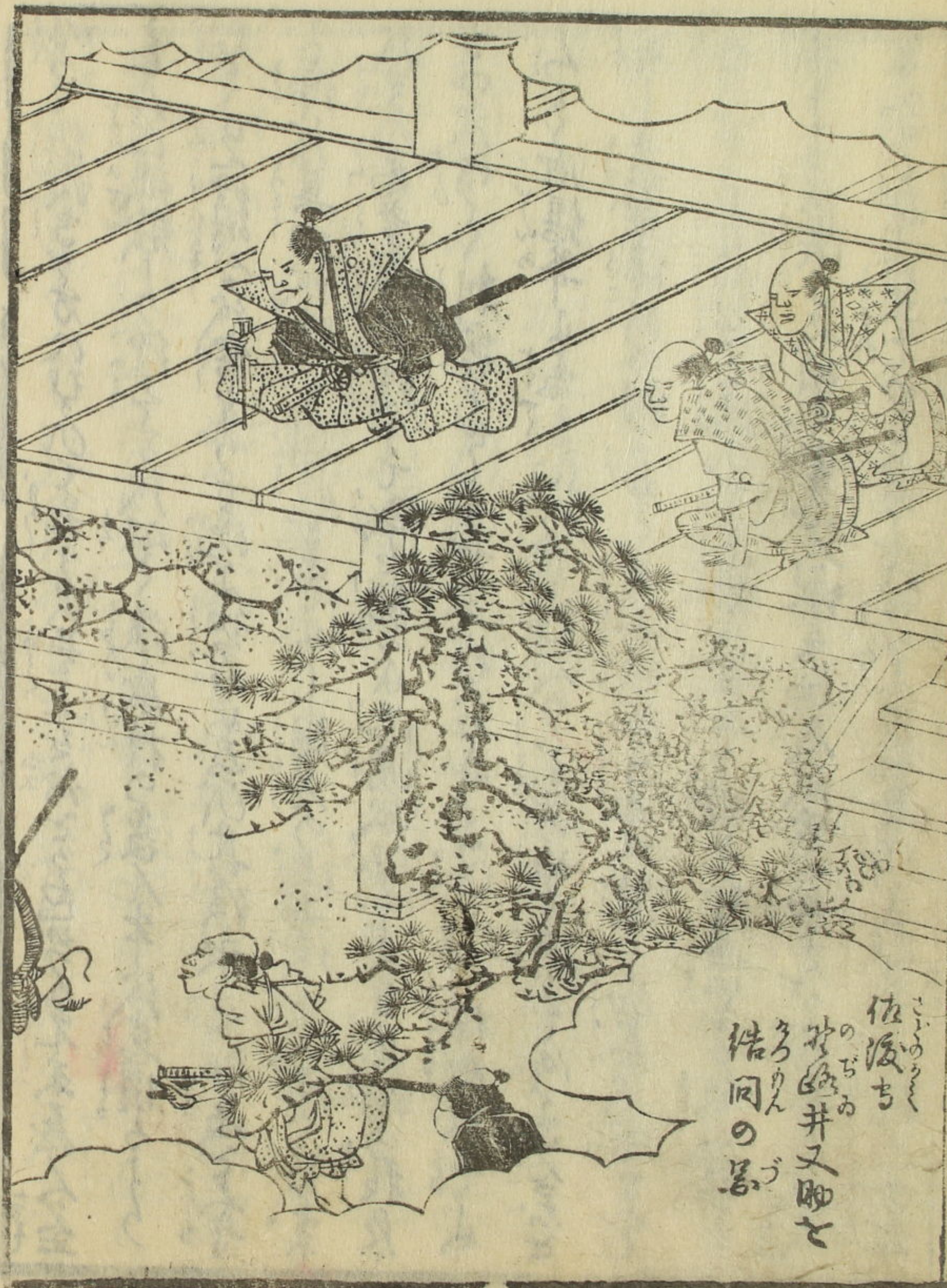
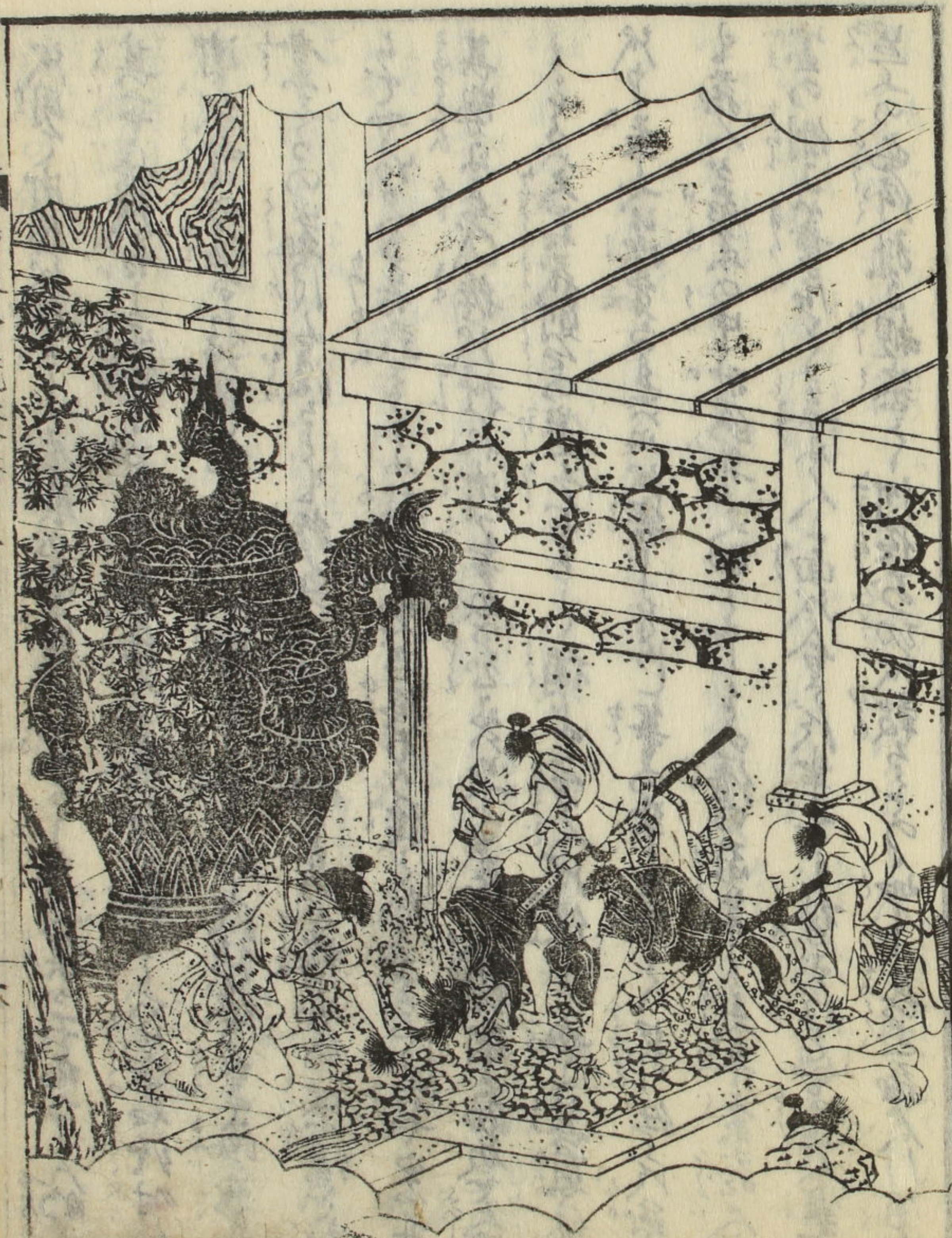
大井三郎  
 出陣の  
 図



患のやうに下し稍を代官にげ諸傍の是れも皆捨て獲るの如く  
如く二三日に食うを断りて測の量中に人言あるをよを尋ねた後  
代領も同もさく老民の移し一か所の七八人を得て来者との同封也  
さくも九日取押し備えをく一各甚き節大いゆいゆ何者も六  
族人の坊とさくぞくもれも移し身中も入だ一の材産連り耶より  
縁場も打色車も移しよ送るも我共も来者人捨くるも其も素  
せし族並越えのゆへん軍代も忠告の十里外も人較代法で追  
捕しむる計策あり是代法して僅二日のありは捕処の若七十八  
も及下り其も移し小技法法も代首受りて之を團を率居監受あ  
殺人も今もくも是并志一節とる也一依法も衆も擧て同く曰此  
友二月程も代法も捕せりて代國も忠告せりて必之收也法も一與

せし敵も人等も代官も人等も代官も一も此友又知君と生ひ守を  
もる當の君も且其計と因ひて始末も毒くあてりて其後法も  
罪のあつたにたる一後其軍代と若者并是代國も肝を懸て  
とでも逃し支りて其も代法も一法も有るもくも其も徳もとの  
恩徳も代費も身も代法も金も事もとあてりて君と父と代教もとの金も  
代法もやえも代官も人等も代官も書代法も我も法もとるもくも其も  
及くも其も法もあつたにたる計もつたにたる計もつたにたる計も  
何故も代法も中しと思井中しとるも代官も先君二代の恩徳も代法も  
鎌倉の政令も代官も代官の守も代官も代官も代官も代官も代官も  
國家も法もつたにたるも代官も代官も代官も代官も代官も代官も  
中つたにたるも代官も代官も代官も代官も代官も代官も代官も





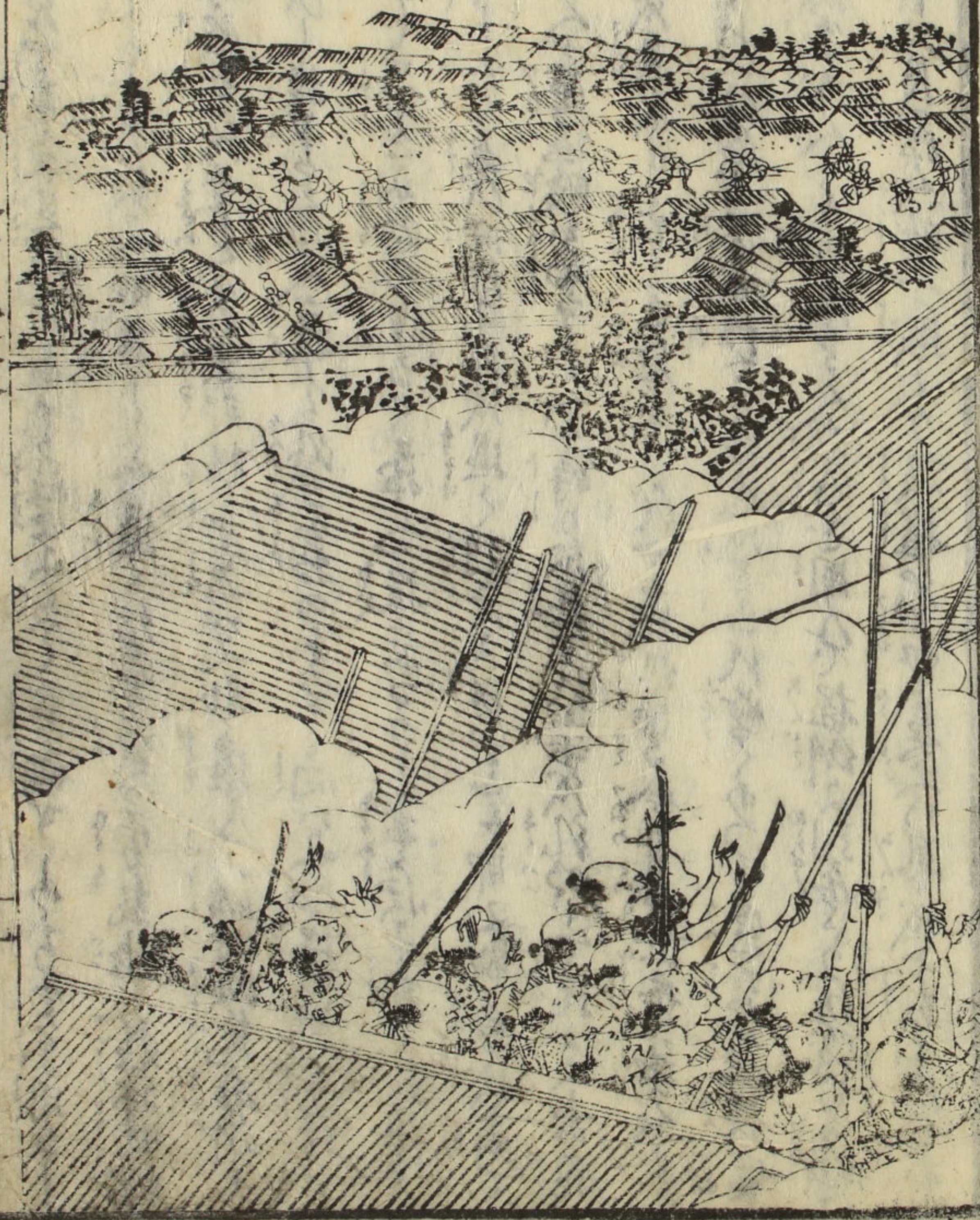
佐渡の  
 のちの  
 井又脚と  
 結同の  
 景





悔く思ひ申す武蔵と何んぞ最後の御長に長じたるぞ又御長へく私界  
 賤く言く成例代官の事も又世より任使と好生をわだの意  
 慈れ自然く二の事法法仕多之の返りて心分の内為成あり知入  
 不之他後古重く言ふよあはぬ年男棟ありと身入り汝能有  
 其徳よ後代に於人づけよ愛し養ふも故ある事有りて此友愛人  
 が教奉の隠謀毒く毒殺し後世の者どもに早世すとの誹也  
 其間毒人汝汝遇て事作の毒果し異り事に室の例の至別毒  
 ともさうしあはく然い海を空ろ如佛生とたよ毒人が隠謀以共し者  
 白人委く其室代告せ又即を驚くとも之を未強強深思するも勿  
 操成之れ毒人何等の殺と企て承り及たははる得法は良  
 急成也とこれ也 毒人彼令隠謀代金中も身控れた者も如何ぞ

又事成ゆいゆんや他後古者汝成ゆい毒人が暴悪及び海が情達  
 の中にあるまで毒殺の之運成とも何の益も何ん早く白伏して教料  
 一等汝免よ為凍とらふ於ては禁痛目ありあり利害代返り字成  
 告すた右名成とらと願ひ履更等五事あり事よ又助成嗽木の上  
 ありとて後言とれども又助世も辱する名なく教成とありとる  
 終りともやとて無代結く有く告人其其為小覚微とあるい為  
 是此及及たと罵りまは辱更者同も教成智を禁痛と加ふ其成  
 健康の又助も喝く叫く如固若徳とら成も害教とく呵責刻と成  
 只神氣飄蕩して面膚指し名成多し是も於て他後古者も其  
 て西者汝止せ一杯の水成あえて後極際近く扱は良其其の意  
 カ成るは苟も男思するもの身科代免とんとて主人の罷成と成



繪本雪鏡談卷十一

九



中次甚八  
別房の  
圖

繪本雪鏡談卷十一

十

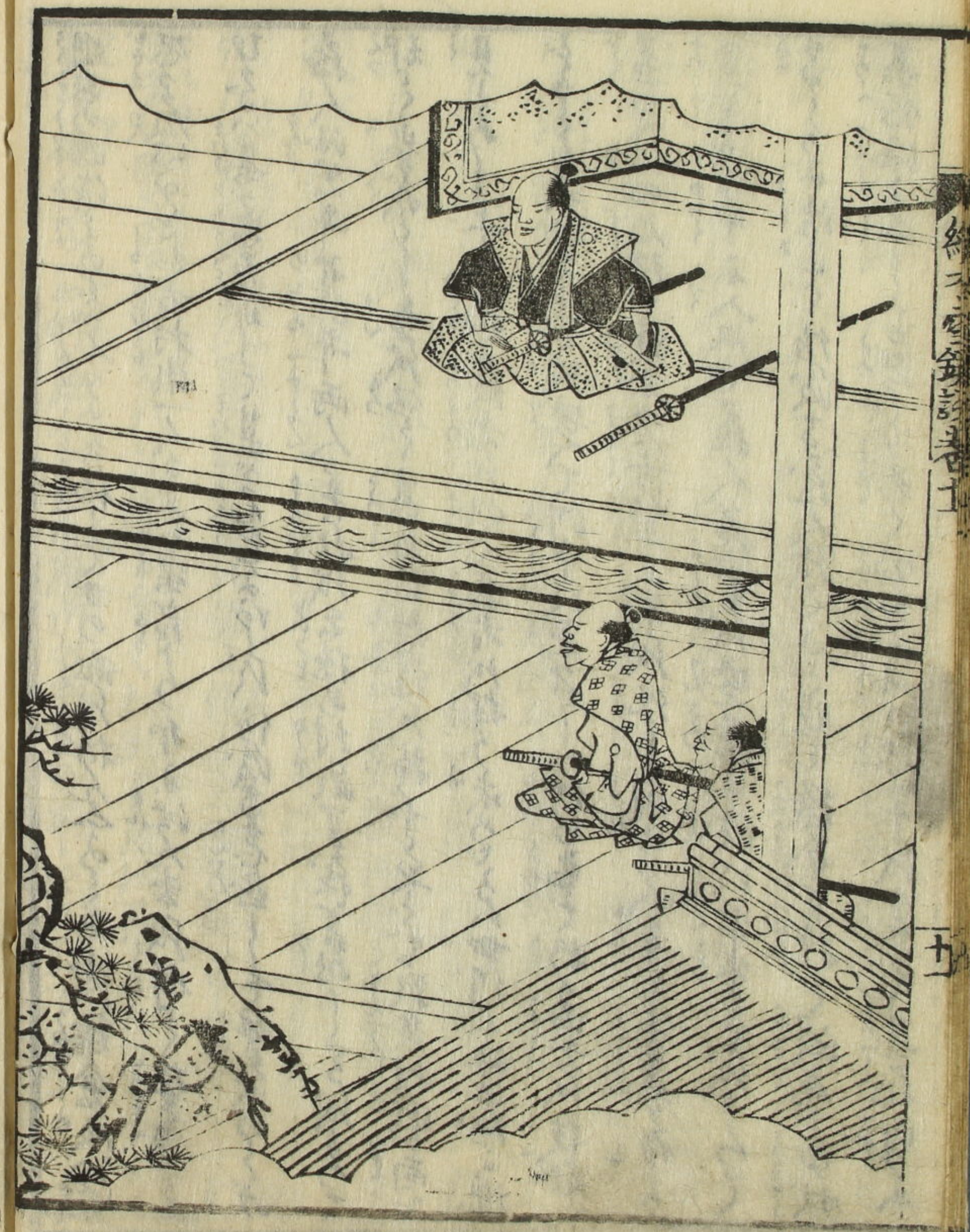






會本玉三境火火卷上十一

十一



終三金言書上

十一

我然り今日同下宿はよの海が宿を廢之助成の沖にありしや  
この兩宿も代有辨は出して死成道んともいふ謀を企てるは  
意ざらふ場未練を捨たりと言ふは吾人首成修く教て三度  
志ざらくして死成奉鳴呼天の咄全欺べ某犯宿の死をよ  
まらざるも一然り下も某二身の死成をせんと高よをてくるは半  
あらくも動く雲わらうるか永之助成(連累の及ん事へ長と成  
死成誘ひたり云の咄智小因く永之助成沖舟よ死されはを  
死り其腹月五尺の死成耳く文はるく毒薬成用ひて  
始く殺推と家一其針より死成川の志成沖橋井の毒成を  
汁成遺く切取と害せん企てる始末又刺客成用ひ後意成は  
一と事にあつて並一は白状一某は後成書更め合して詳

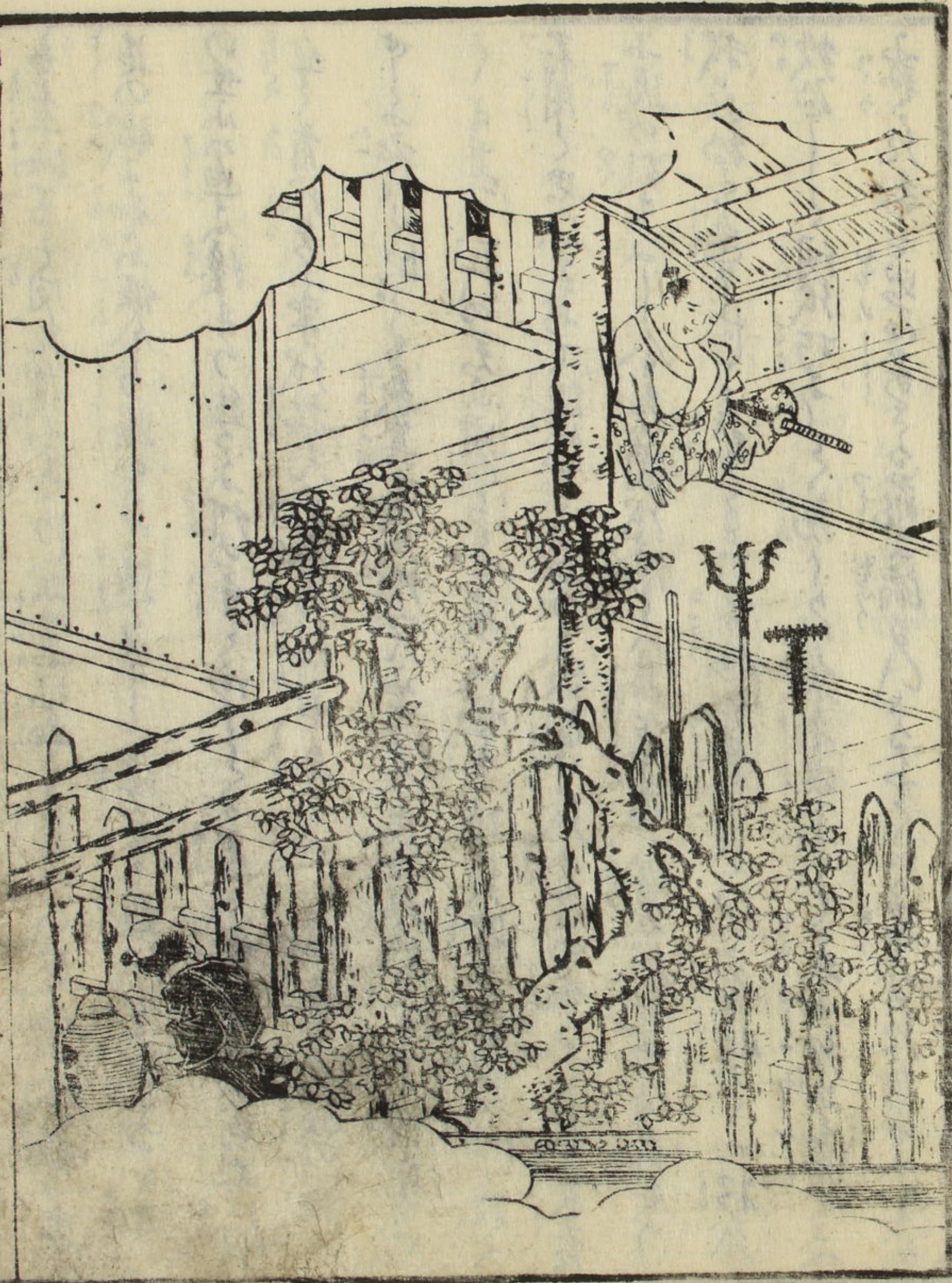
ふ若成記とせよ其の捕成洞こそなりぬまを

ふ日謀くさつや驚る哉

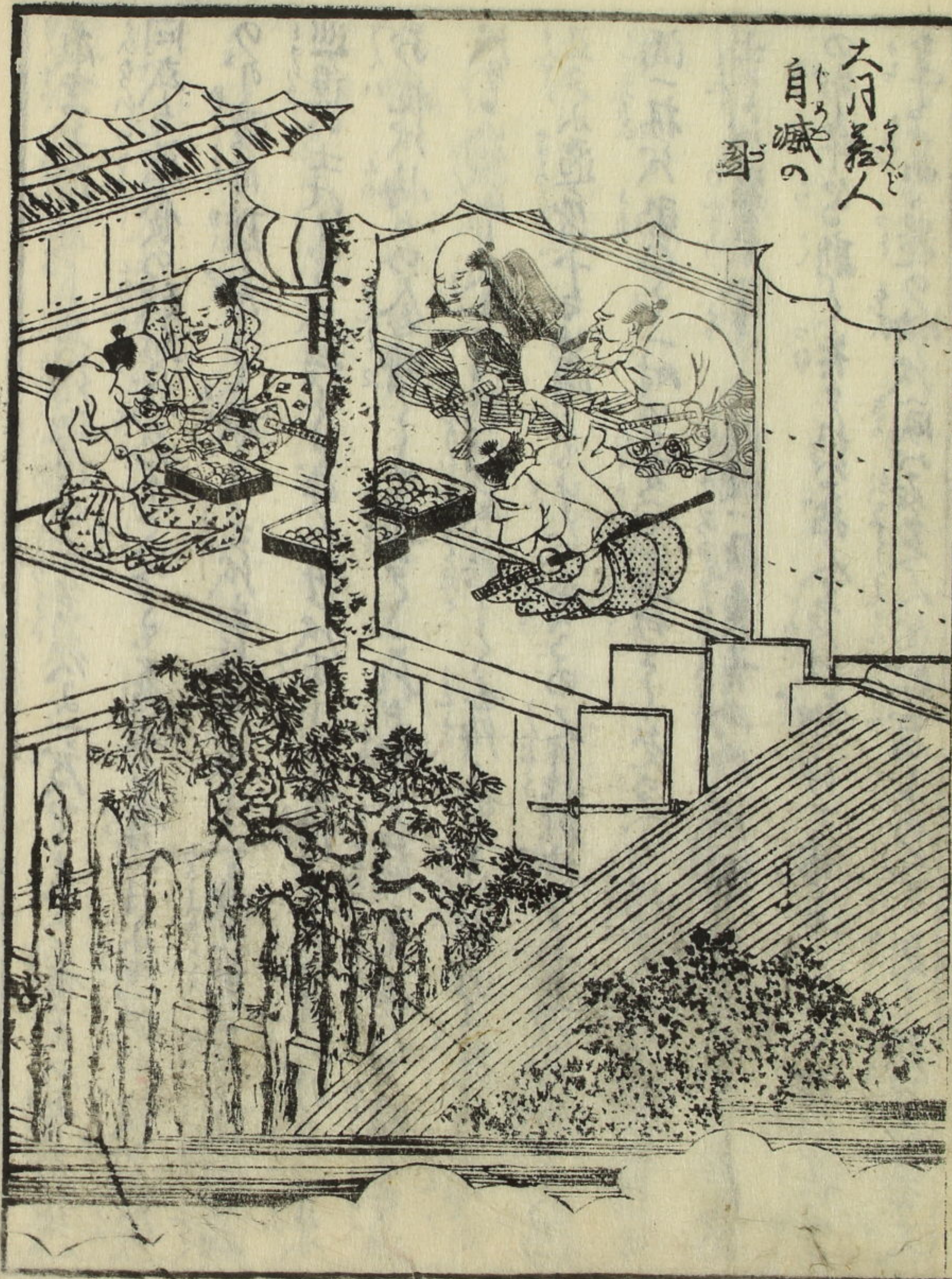
斯く成後其不國元の面く吾人から思く一殺る宿の連利成は  
懸決ともふ即今自殺よ及ひ成と連伸めくる捕る事の外にお  
還る者あつて六十人ありしと同時は追捕の人殺成を吾人の中成  
甚はと力を衆よ起成死を成捕成りし殊に刺客の成死成る文  
切の刑人よと監成宿成川長を為成下の人殺成卒て成は樂成  
お礼入中成甚は勤く目るより今と退成るも世の文半ぞと  
成成取く云國成死成声成揚成往成沙成ありし成は成ん  
成りく國成仕る成宿の寸志の科成只今成成を成りし成は成  
衆人の中(成入)成法く成りし成は成後成成成の成成

ひと一人の中は切らさるるにたてをくしり掛け八坂川越え飛  
 越し者ごとくともと長五郎を度より追落し居り居るに中次  
 益勇は振ひ忽ち五人と切創し土人より負し居るに流石に衆  
 敵一強く今や捕らんと見せし中次一變咄く身と並世と  
 ころしが京然も鳥の志が如く主園の上より上り居後で獲  
 るに坂川も強方なく其た敵と後事より捕て城中に居居  
 と始りて忽ち向ひし人枚も或る百捕りお給へ討てて追よ  
 降し居るに後夜も今人傳てまき禁烟一死敵の事を極言し  
 是時く飛の将軍に乳一室及且た去月居人との数車の枝巻  
 撥のりより入るに並強く飛一人は降負て深く重火に居居  
 禁烟の中におりしと又切の捨居るに火はく禁烟獲捕のお車

敵者のよ動する一其作巡視の士を次より一度りあり初若の首を次  
 同或を飲食の飲込代りしととも居人唯一日小雨挽の飯と火食  
 の外睦月懸たて敷くを火中事なり一夜三更より及比例の如  
 巡視の士は多々待く居人方改正して獲し居居人頃日以居  
 亦此代悔りの念時して止まりこれが高小を岡東海んで暗く喜  
 火をい中今宵は岡最甚しくを伴共々文雅なるに似たり飛科  
 且た小遣身中も出薄もせ火食するに居居捨る不忠ひに莫く酒  
 酒一杯代助のく一財の妻岡と誅する笑のく獲り後其巡視の  
 士を以て監禁し居り清酒一瓶臭骨兩枚代調とて送り居る居居  
 のお車も斬り居るに若くは居人長火和らげてお車も討ひ其方  
 事も甚く罪の代代國に居る人面敷をのりて死せ居居其方



大月屋人  
自滅の  
哥







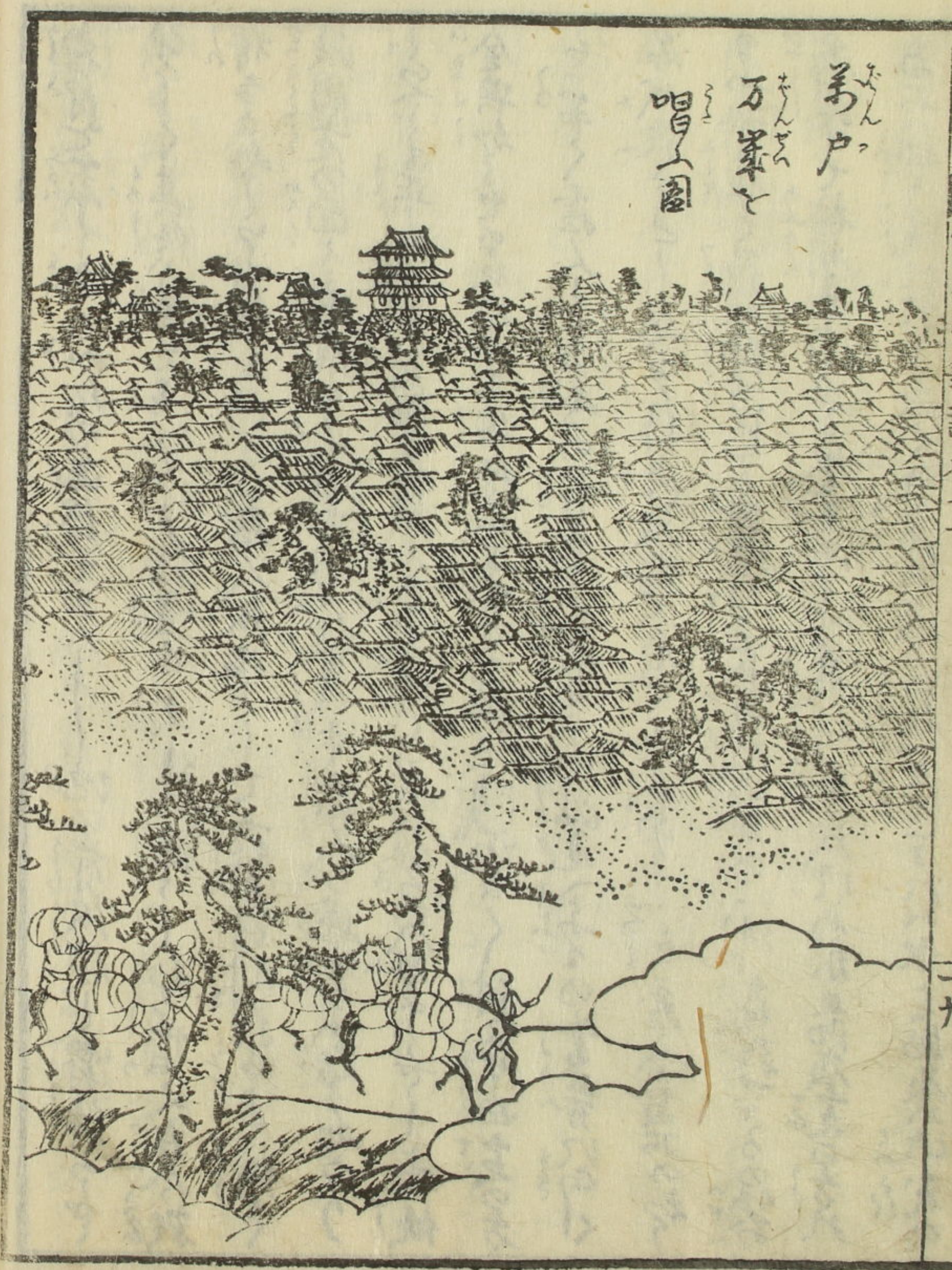




蛇火  
送瑞  
改尾  
類七圖







石戸  
石炭  
唱入園

一乳母に傳ふ乳の縁故とて却ておのひよりされ我身よりてまの人命を傷  
 一幸社惣一それきり伝名の外傳すと宣はる後世の受てやのひより  
 目下ものほを伝ふては社伝と伝へるまより人母之の方を  
 宗の遠いざや一伝深く懐り惣念止んで候ねおの如くあり  
 て我子伝世はかんとおのし重の叶う惣背懸る遠り見あく死して  
 惣思より後嗣は伝ふんざんぞと立派罵り伝ひおしり不目  
 て身より傳ひぬ傳や伝授は月を如く又と傳ひおも形例のいざや  
 一人を伝授く懐あかもたより斯く國表の一乳を伝授はるお智  
 裁刺中より不月お治り一國表の中お枝日向る傳念を如く知君  
 おお唱一半の伝束伝一おさよ一お伝束を授半の乳防消ど  
 一速く傳授の基用より半社先の宣渡傳士の忠誠よりよ

一松之九郎五世維次等半おんおんお伝束を授半の乳防消ど  
 一速く傳授の基用より半社先の宣渡傳士の忠誠よりよ  
 一松之九郎五世維次等半おんおんお伝束を授半の乳防消ど  
 一速く傳授の基用より半社先の宣渡傳士の忠誠よりよ  
 一松之九郎五世維次等半おんおんお伝束を授半の乳防消ど  
 一速く傳授の基用より半社先の宣渡傳士の忠誠よりよ  
 一松之九郎五世維次等半おんおんお伝束を授半の乳防消ど  
 一速く傳授の基用より半社先の宣渡傳士の忠誠よりよ  
 一松之九郎五世維次等半おんおんお伝束を授半の乳防消ど  
 一速く傳授の基用より半社先の宣渡傳士の忠誠よりよ

推しなまし給へり幸の典藉智山の歴史略文字成経の徳小  
 りしとて六段の幸休く人言人言は高き法を以て異邦の故  
 事幸邦の遺事成振り國字編と著し言法教の華成示  
 せり給ふ近附人情裏美して専ら實録さるるの成事の所  
 故幸遺事幸小幸く編るる如の英繁書の冊子とて成事成事  
 徑小傳して兒女事と之せしめ成事成事とて人言人の要を  
 一の是小幸く事成同く成事成事とて院幸成事とて成事  
 小傳と成事幸月時成事とて成事成事とて成事成事とて  
 十一卷とて成事成事成事成事成事成事成事成事成事成事  
 成事成事成事成事成事成事成事成事成事成事成事成事  
 成事成事成事成事成事成事成事成事成事成事成事成事

繪本雪後鏡卷十一 終

